

Oracle® Database

クイック・インストール・ガイド

10g リリース 2 (10.2) for HP Tru64 UNIX

部品番号 : B50705-01

2009 年 5 月

このマニュアルでは、Oracle Database 10g を HP Tru64 UNIX システムにすばやくインストールする方法を説明します。次の内容について説明します。

1. このマニュアルの概要
2. [root](#) としてのシステムへのログイン
3. ハードウェア要件の確認
4. ソフトウェア要件の確認
5. 必要なオペレーティング・システム・グループおよびユーザーの作成
6. 必要なディレクトリの作成
7. カーネル・サブシステム属性の構成
8. [oracle](#) ユーザーの環境の構成
9. 製品ディスクのマウント
10. Oracle Database のインストール
11. Oracle Database 10g Companion CD からの製品のインストール
12. インストール後の作業
13. 追加情報
14. ドキュメントのアクセシビリティについて

1 このマニュアルの概要

このマニュアルでは、デフォルトのインストール・オプションを使用して Oracle Database をインストールする方法を説明します。

このマニュアルで説明するタスク

このマニュアルでは、次のタスクを説明します。

- Oracle Database をサポートするためのシステムの構成
- 「基本インストール」オプションを使用したローカル・ファイル・システムへの Oracle Database のインストール
- データベース・ファイルの格納にローカル・ファイル・システムを使用する汎用 Oracle Database の構成

正しくインストールされた場合の結果

Oracle Database のインストールに成功すると、次の状態になります。

- 作成したデータベースおよびデフォルトの Oracle Net リスナー・プロセスがシステム上で稼働します。

ORACLE®

Copyright © 2009, Oracle.
All rights reserved.

Oracle と Oracle のロゴは Oracle Corporation の登録商標です。記載されているその他の製品名および社名はその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれ該当する所有者の商標です。

- Oracle Enterprise Manager Database Control および iSQL*Plus が稼働中となり、Web ブラウザからアクセスできます。

このマニュアルで説明しないタスク

このマニュアルでは、「基本インストール」の使用例を取り上げますが、次のタスクの実行方法は説明しません。

- 「拡張インストール」オプションを使用したソフトウェアのインストール
- すでに Oracle ソフトウェアが存在するシステムへのソフトウェアのインストール
- クラスタへの Oracle Clusterware および Oracle Real Application Clusters (RAC) のインストール
- Enterprise Manager の電子メール通知または自動バックアップの有効化
- データベース記憶域としての自動ストレージ管理または RAW デバイスなどの代替記憶域の使用

追加インストール情報の入手先

このマニュアルで説明されていない情報を含む Oracle Database のインストール方法の詳細は、次のいずれかのマニュアルを参照してください。

- ソフトウェアを単一システムにインストールする場合は、『Oracle Database インストール・ガイド for HP Tru64 UNIX』を参照してください。
- RAC インストールを実行する場合は、『Oracle Database Oracle Clusterware および Oracle Real Application Clusters インストール・ガイド for HP Tru64 UNIX』を参照してください。このマニュアルでは、RAC インストールの前提条件である Oracle Clusterware のインストール方法も説明しています。

この 2 つのマニュアルは製品ディスクに収録されています。これらのマニュアルにアクセスするには、Web ブラウザを使用して、インストール媒体のトップレベル・ディレクトリにある welcome.htm ファイルを開き、「ドキュメント」タブを選択します。

2 root としてのシステムへのログイン

Oracle Database をインストールする前に、root ユーザーとしていくつかのタスクを実行する必要があります。root ユーザーとしてログインするには、次の手順の 1 つを実行します。

注意： ソフトウェアは、X Window System ワークステーション、X 端末、または X サーバー・ソフトウェアがインストールされている PC またはその他のシステムからインストールする必要があります。

- X Window System ワークステーションまたは X 端末からソフトウェアをインストールする手順は、次のとおりです。
 1. X 端末 (xterm) など、ローカル・ターミナル・セッションを開始します。
 2. ソフトウェアをローカル・システム以外にインストールする場合、リモート・ホストの X アプリケーションをローカル X サーバーに表示できるように、次のコマンドを入力します。

```
$ xhost fully_qualified_remote_host_name
```

例：

```
$ xhost somehost.us.acme.com
```

- ローカル・システム以外のシステムにソフトウェアをインストールする場合は、`ssh`、`rlogin` または `telnet` コマンドを使用して、ソフトウェアをインストールするシステムに接続します。

```
$ telnet fully_qualified_remote_host_name
```

- `root` ユーザーとしてログインしていない場合は、次のコマンドを入力して、ユーザーを `root` に切り替えます。

```
$ su - root
password:
#
```

- X サーバー・ソフトウェアがインストールされた PC またはその他のシステムからソフトウェアをインストールする手順は、次のとおりです。

注意： この手順の詳細は、必要に応じてご使用の X サーバーのドキュメントを参照してください。使用中の X サーバー・ソフトウェアによっては、作業を異なる順序で完了することが必要な場合があります。

- X サーバー・ソフトウェアを起動します。
- X サーバー・ソフトウェアのセキュリティ設定を構成して、リモート・ホストの X アプリケーションをローカル・システム上で表示できるようにします。
- ソフトウェアをインストールするリモート・システムに接続し、そのシステムで X 端末 (`xterm`) などのターミナル・セッションを開始します。
- リモート・システムに `root` ユーザーとしてログインしていない場合は、次のコマンドを入力してユーザーを `root` に切り替えます。

```
$ su - root
password:
#
```

3 ハードウェア要件の確認

システムは、少なくとも次のハードウェア要件を満たしている必要があります。

- 1024MB 以上の物理 RAM。
- 次の表に、インストールされている RAM と構成されたスワップ領域要件との関係を示します。

RAM	スワップ領域
最大 1024MB	RAM のサイズの 2 倍
1024 ~ 2048MB	RAM のサイズの 1.5 倍
2049 ~ 8192MB	RAM のサイズと同等
8192 MB 超	RAM のサイズの 0.75 倍

- `/tmp` ディレクトリ内の 400MB のディスク領域
- Oracle ソフトウェア用の 3GB のディスク領域（インストール・タイプにより異なる）
- ファイル・システム記憶域を使用する事前構成済データベース用の 1.2GB のディスク領域（オプション）

注意： 自動ストレージ管理または RAW デバイス記憶域を使用するデータベースのディスク領域要件については、この章で後述します。

自動バックアップの構成を選択した場合は、フラッシュ・リカバリ領域に対して、ファイル・システム上または自動ストレージ管理ディスク・グループ内に追加ディスク領域が必要です。

システムがこれらの要件を満たしているかどうかを確認するには、次の手順を実行します。

1. 物理 RAM のサイズを調べるには、次のコマンドを入力します。

```
# /bin/vmstat -P | grep "Total Physical Memory"
```

システムにインストールされている物理的な RAM のサイズが必要なサイズに満たない場合は、追加のメモリーをインストールしてから続行してください。

2. 構成されているスワップ領域のサイズを調べるには、次のコマンドを入力します。

```
# /sbin/swapon -s
```

追加のスワップ領域の構成方法は、必要に応じてご使用のオペレーティング・システムのマニュアルを参照してください。

3. /tmp ディレクトリ内の空きディスク領域の量を調べるには、次のコマンドを入力します。

```
# df -k /tmp
```

/tmp ディレクトリで使用できるディスク領域が 400MB 未満の場合は、次の手順の 1 つを実行します。

- /tmp ディレクトリから不要なファイルを削除します。
- oracle ユーザーの環境を設定する場合（後述します）は、TMP および TMPDIR 環境変数を設定します。
- /tmp ディレクトリを含むファイル・システムを拡張します。ファイル・システムの拡張方法は、必要に応じてシステム管理者に確認してください。

4. システム上で使用できる空きディスク領域の量を調べるには、次のコマンドを入力します。

```
# df -k
```

次の表に、ソフトウェア・ファイルのおおよそのディスク領域要件をインストール・タイプごとに示します。

インストール・タイプ	ソフトウェア・ファイルの要件 (GB)
Enterprise Edition	3.0
Standard Edition	3.0
カスタム (最大)	3.0

4 ソフトウェア要件の確認

ご使用のオペレーティング・システムのディストリビューションおよびバージョンごとに、システムが少なくとも次のソフトウェア要件を満たしている必要があります。

注意： Oracle Universal Installer は、システムをチェックして、システムがリストに示されている要件を満たしているかどうかを検証します。これらのチェックに確実にパスするように、Oracle Universal Installer を起動する前に要件を確認してください。

- オペレーティング・システムのバージョンは、HP Tru64 UNIX V5.1B である必要があります。
- システムには、Software Development Kit (SDK) v 1.4.2 for the Tru64 UNIX Operating System for the Java Platform (JDK 1.4.2) が必要です。
- 次のオペレーティング・システム・サブセットが必要です。

OSFCMPLRS
OSFLIBA
OSFPGMR
OSFSER
OSFX11

インストールする Oracle 製品について、システムが次の製品固有の要件を満たす必要があります。

- PL/SQL のネイティブ・コンパイル、Pro*C/C++、Oracle Call Interface、Oracle C++ Call Interface および Oracle XML Developer's Kit (XDK)
 - Compaq C Compiler V6.5-207 (dtk):
DTCCMPLR
 - Compaq C++ Version 6.5-014:
CXXBASE
CXXLIB
CXXOLD
 - gcc 3.0
 - Compiler Driver V6.5-207 (dtk) cc Driver
 - Entrust IPsec Toolkit for C 6.0
 - Entrust Server Login 6.0
- Oracle JDBC/OCI ドライバ
Oracle JDBC/OCI ドライバとともに次の JDK バージョンを使用できます。
 - SDK v 1.3.1-5
 - SDK v 1.2.2-12

注意： ソフトウェアをインストールする前に、SDK v 1.4.2 がインストールされている必要があります。

- Pro*FORTRAN
Compaq Fortran 90 および 77 V5.4A:
 - DFABASE
 - DFACOM
 - DFARTL

- Pro*COBOL
Micro Focus Server Express 4.0 SP1 以上
- Oracle Net protocol support for DCE
DCE v4.3.1 以上 :
 - DCECDS
 - DECRTS
 - DCESEC

システムがこれらの要件を満たしているかどうかを確認するには、次の手順を実行します。

1. インストールされている Tru64 UNIX のバージョンを調べるには、次のコマンドを入力します。

```
# /usr/sbin/sizer -v
Compaq Tru64 UNIX V5.1B (Rev. 2650); Mon Nov 3 10:13:28 PST 200
```

この例で表示されるバージョンは、**V5.1B** です。オペレーティング・システムのアップグレードの詳細は、必要に応じてご使用のオペレーティング・システムのマニュアルを参照してください。

2. Java SDK 1.4.2 がインストールされているかどうかを調べるには、次のコマンドを入力します。

```
# /usr/sbin/setld -i JAVA142 | more
```

Java SDK 1.4.2 がインストールされている場合、このコマンドによりインストールされているすべてのファイルへのパスが表示されます。Java ホーム・ディレクトリのパスを書き留めます。インストール時にこの値を指定する必要があります。デフォルトのパスは次のとおりです。

```
/usr/opt/java142
```

このコマンドが「不明なサブセット」というメッセージを戻した場合、Java SDK 1.4.2 はインストールされていません。次の Web サイトから Java SDK 1.4.2-4p2 以上をダウンロードしてインストールしてください。

<http://www.compaq.com/java/download/index.html>

3. 必要なソフトウェア・サブセットがインストールされているかどうかを調べるには、次のいずれかのコマンドを入力します。

- システムにインストールされているすべてのソフトウェア・サブセットのリストを表示するには、次のコマンドを入力します。

```
# /usr/sbin/setld -i | more
```

- 特定のソフトウェア・サブセットがインストールされているかどうかを調べるには、次のようにコマンドを入力します。

```
# /usr/sbin/setld -i | grep subsetname
```

必要に応じて、必要なソフトウェア・サブセットをインストールします。Compaq C Compiler V6.5-207 (dtk) が必要な場合は、次の Web サイトからダウンロードできます。

<http://www.tru64unix.compaq.com/dtk/>

4. Oracle Messaging Gateway を使用する場合で、MQSeries classes for Java および MQSeries classes for Java Message Service (SupportPac MA88) が必要な場合は、次の Web サイトからダウンロードします。

<http://www.ibm.com/software/integration/support/supportpacs/individual/ma88.htm>

また、システムに次のパッチ（またはそれ以降のバージョン）がインストールされていることを確認する必要があります。パッチのリストに続く手順では、これらの要件を確認する方法について説明します。

注意： システムには、リストに示したパッチよりも新しいバージョンがインストールされている場合があります。リストに記載されているパッチがインストールされていない場合は、リストに記載されているバージョンをインストールする前に、最新のバージョンがインストールされているかどうかを調べてください。

■ Tru64 UNIX のすべてのインストールについて、次のパッチが必要です。

- Tru64 UNIX V5.1B Patch Kit 2 以上。

T64V51BB22AS0002-20030415

- 次のパッチ・キットも必要です。

_OtsMove の HP Tru64 UNIX 5.1B PK2 BL22 Fixes for AdvFS Panic. 考えられるメモリーの破損：

T64KIT0020879-V51BB22-E-20031125

HP Tru64 UNIX - IP マルチキャスト・パケットの問題：

T64KIT0019662-V51BB22-E-20030818

HP Tru64 UNIX V5.1B PK2 (BL22) ERP キット - 複数アプリケーションの修正では、同じファイルに排他ロックが付与されることもあります。

T64KIT0021665-V51BB22-E-20040220

Tru64 UNIX V5.1B PK2/BL22 Early Release Patch - 潜在的なアプリケーション・コア・ダンプの修正：

T64KIT0021681-V51BB22-E-20040223

■ Oracle Messaging Gateway インストールの場合、WebSphere MQ の次の修正サービス・ディスクレット（CSD）が必要です。

MQSeries V5.1 用 CSD09 以上

必要なパッチ・キットがインストールされているかどうかを調べるには、次のコマンドを入力します。

```
# /usr/sbin/dupatch -track -type kit
```

このコマンドで前述の必要なパッチ・キットの表に示された ID（またはそれ以降のパッチ・キット・レベルの ID）が表示されない場合、次の Web サイトから最新のパッチ・キットをダウンロードしてインストールします（この Web サイトにアクセスするには登録が必要です）。

<http://itrc.hp.com/service/patch/mainPage.do>

MQSeries の CSD が必要な場合は、次の Web サイトでダウンロードおよびインストールの情報を確認します。

<http://www.ibm.com/software/integration/mqfamily/support/summary/dig.html>

5 必要なオペレーティング・システム・グループおよびユーザーの作成

Oracle Database をインストールする場合、次のローカル・オペレーティング・システム・グループおよびユーザーが必要です。

- Oracle インベントリ・グループ (oinstall)
- OSDBA グループ (dba)
- Oracle ソフトウェア所有者 (oracle)
- 権限のないユーザー

これらのグループおよびユーザーがすでに存在しているかどうかを調べる場合、または必要に応じて作成する場合は、次の手順に従います。

1. oinstall グループが存在しているかどうかを調べるには、次のコマンドを入力します。

```
# more /var/opt/oracle/oraInst.loc
```

oraInst.loc ファイルが存在する場合、このコマンドの出力結果は次のようになります。

```
inventory_loc=/u01/app/oracle/oraInventory
inst_group=oinstall
```

inst_group パラメータは、Oracle インベントリ・グループの名前 oinstall を示しています。

2. 必要に応じて次のコマンドを入力し、oinstall グループおよび dba グループを作成します。

```
# /usr/sbin/groupadd oinstall
# /usr/sbin/groupadd dba
```

3. oracle ユーザーが存在し、正しいグループに属しているかどうかを調べるには、次のコマンドを入力します。

```
# id oracle
```

oracle ユーザーが存在する場合は、このコマンドにより、ユーザーが属しているグループに関する情報が表示されます。出力結果は次のようになります。oinstall がプライマリ・グループで、dba がセカンダリ・グループであることが示されています。

```
uid=440(oracle) gid=200(oinstall) groups=201(dba),202(oper)
```

4. 必要に応じて、次の処理の 1 つを実行します。

- oracle ユーザーが存在していても、プライマリ・グループが oinstall ではないか、そのユーザーが dba グループのメンバーではない場合は、次のコマンドを入力します。

```
# /usr/sbin/usermod -g oinstall -G dba oracle
```

- oracle ユーザーが存在しない場合は、次のコマンドを入力して作成します。

```
# /usr/sbin/useradd -g oinstall -G dba[,oper] oracle
```

このコマンドにより oracle ユーザーが作成され、プライマリ・グループとして oinstall、セカンダリ・グループとして dba が指定されます。

5. 次のコマンドを入力して、oracle ユーザーのパスワードを設定します。

```
# passwd oracle
```

6. nobody ユーザーが存在しているかどうかを調べるには、次のコマンドを入力します。

```
# id nobody
```

このコマンドに nobody ユーザーに関する情報が表示される場合、ユーザーを作成する必要はありません。

nobody ユーザーが存在しない場合は、次のコマンドを入力して作成します。

```
# /usr/sbin/useradd nobody
```

6 カーネル・サブシステム属性の構成

次の表で、カーネル・サブシステム属性が表に示す推奨値以上の値に設定されていることを確認してください。表の後に、値を確認および設定する手順について説明します。

注意： この項に示されるカーネル・サブシステム属性値は、あくまでも推奨値です。本番データベース・システムでは、これらの値をチューニングして、システムのパフォーマンスを最適化することをお勧めします。カーネル・サブシステム属性値のチューニングの詳細は、使用するオペレーティング・システムのドキュメントを参照してください。

サブシステム	属性	推奨値
ipc	shm_max	4278190080 (4GB マイナス 16MB)
	shm_min	1
	shm_mni	256
	shm_seg	256
	ssm_threshold	この属性は、rad_gh_regions[n] または gh_chunks の各属性が vm サブシステムに設定されている場合にのみ 0 に設定します。それ以外の場合は、値を変更しないでください。
proc	exec_disable_arg_limit	1
	per_proc_stack_size	8388608 (8MB)
	max_per_proc_stack_size	33554432 (32MB) Oracle でこのパラメータに対してサポートされる値は、最大 512MB です。
	per_proc_data_size	335544320 (320MB)
	max_per_proc_data_size	335544320 (320MB)
	max_per_proc_address_space	RAM のサイズまたは 1073741824 (1GB) のうち大きい方の値
	per_proc_address_space	RAM のサイズまたは 1073741824 (1GB) のうち大きい方の値

サブシステム	属性	推奨値
rdg	msg_size	32768
	max_objs	5120
	max_async_req	256
	max_sessions	500（または、システム上のすべてのデータベースに対する PROCESSES 初期化パラメータ値が 500 より大きい場合は、それに 20 を加えた値以上の値）
	rdg_max_auto_msg_wires	0
	rdg_auto_msg_wires	0
rt	aio_task_max_num	8193
vfs	fifo_do_adaptive	0
vm	new_wire_method	0

注意： カーネル・サブシステム属性の現在の値がこの表に示された値より大きい場合は、推奨値が 0 の場合を除いて属性の値を変更しないでください。

これらのカーネル・パラメータに指定されている現在の値を表示し、必要に応じてその値を変更する手順は、次のとおりです。

1. サブシステム属性の現行値を表示するには、次のようにコマンドを入力します。

```
# /sbin/sysconfig -q subsystem
```

2. 現行値を変更する必要がある場合は、次の手順を実行します。

- /etc/sysconfigtab ファイルのバックアップ・コピーを作成します。次に例を示します。

```
# cp /etc/sysconfigtab /etc/sysconfigtab.orig
```

- 任意のテキスト・エディタを使用して、変更するサブシステムおよび属性を指定した次のようなファイルを作成します。

```
ipc:
    shm_max = 4278190080
    shm_min = 1
    shm_mni = 256
    shm_seg = 128

proc:
    exec_disable_arg_limit = 1
    per_proc_stack_size = 8388608
    max_per_proc_stack_size = 33554432
    per_proc_data_size = 335544320
    max_per_proc_data_size = 335544320
    max_per_proc_address_space = 4294967296
    per_proc_address_space = 4294967296
```

- 次のようなコマンドを入力して、/etc/sysconfigtab ファイルにサブシステム属性を追加します。

```
# /sbin/sysconfigdb -m -f filename
```

この例で、filename は手順 b で作成したファイルの名前です。

- 次のコマンドを入力してシステムを再起動します。

```
# /sbin/shutdown -r now
```

- システムが再起動した後、ログインしてユーザーを root に切り替えます。

7 必要なディレクトリの作成

次のような名前のディレクトリを作成し、それらのディレクトリに、適切な所有者、グループおよびアクセス権を指定します。

- Oracle ベース・ディレクトリ
- オプションの Oracle データ・ファイル・ディレクトリ（オプション）

Oracle ベース・ディレクトリには 3GB の空きディスク領域、Oracle データファイル・ディレクトリを別に作成しない場合は、4GB の空きディスク領域が必要です。

Oracle ベース・ディレクトリを作成する手順は、次のとおりです。

1. 次のコマンドを入力して、マウントされているすべてのファイル・システムに関する情報を表示します。

```
# df -h
```

このコマンドにより、システムにマウントされているすべてのファイル・システムに関する情報が表示されます。次のような情報があります。

- 物理デバイス名
 - ディスク領域の合計量、使用量および使用可能な量
 - そのファイル・システムのマウント・ポイント
2. 表示される内容から、この項で前述したディスク領域要件を満たすファイル・システムを 1 つまたは 2 つ識別します。
 3. 識別した各ファイル・システムのマウント・ポイント・ディレクトリの名前を書き留めます。
 4. 次のような各コマンドを入力して、識別したマウント・ポイント・ディレクトリに推奨のサブディレクトリを作成し、それに対する適切な所有者、グループおよびアクセス権を設定します。

```
# mkdir -p /mount_point/app/oracle_sw_owner
# chown -R oracle:oinstall /mount_point/app/oracle_sw_owner
# chmod -R 775 /mount_point/app/oracle_sw_owner
```

たとえば、識別したマウント・ポイントが /u01 で、oracle が Oracle ソフトウェア所有者のユーザー名の場合、推奨される Oracle ベース・ディレクトリ・パスは次のようになります。

```
/u01/app/oracle
```

8 oracle ユーザーの環境の構成

Oracle Universal Installer は、oracle アカウントから実行します。ただし、Oracle Universal Installer を起動する前に、oracle ユーザーの環境を構成する必要があります。環境を構成するには、次の設定が必要です。

- シェル起動ファイルで、デフォルトのファイル・モード作成マスク（umask）を 022 に設定します。
- DISPLAY 環境変数を設定します。

oracle ユーザーの環境を設定するには、次の手順を実行します。

1. X 端末 (xterm) など、新規のターミナル・セッションを開始します。
2. 次のコマンドを入力して、X Window アプリケーションがこのシステム上で正しく表示されることを確認します。

```
$ xhost fully_qualified_remote_host_name
```

3. 次の手順の 1 つを実行します。
 - ターミナル・セッションがソフトウェアのインストール先のシステムに接続されていない場合は、そのシステムに oracle ユーザーとしてログインします。
 - ターミナル・セッションがソフトウェアのインストール先のシステムに接続されている場合は、ユーザーを oracle に切り替えます。

```
$ su - oracle
```

4. oracle ユーザーのデフォルトのシェルを調べるには、次のコマンドを入力します。

```
$ echo $SHELL
```

5. oracle ユーザーのシェル起動ファイルをテキスト・エディタで開きます。

- C シェル (csh または tcsh) :

```
% vi .login
```

6. シェル起動ファイルで次の行を入力または編集して、デフォルトのファイル・モード作成マスクに値 022 を指定します。

```
umask 022
```

7. ORACLE_SID、ORACLE_HOME または ORACLE_BASE 環境変数がファイルで設定されている場合は、ファイルから該当する行を削除します。

8. ファイルを保存してエディタを終了します。

9. シェルの起動スクリプトを実行するには、次のコマンドを入力します。

- Bash シェルの場合

```
$ . ~/.bash_profile
```

- Bourne または Korn シェル:

```
$ . ~/.profile
```

- C シェルの場合

```
% source ~/.login
```

10. ソフトウェアをローカル・システムにインストールしない場合は、次のコマンドを入力し、X アプリケーションをローカル・システム上に表示するように指示します。

- Bourne、Bash または Korn シェルの場合

```
$ DISPLAY=local_host:0.0 ; export DISPLAY
```

- C シェルの場合

```
% setenv DISPLAY local_host:0.0
```

この例では、local_host は、Oracle Universal Installer の表示に使用するシステム (ワークステーションまたは PC) のホスト名または IP アドレスです。

11. ハードウェア要件を確認したときに /tmp ディレクトリの空きディスク領域が不十分と判断した場合は、次のコマンドを入力して、TMP および TMPDIR 環境変数を次のように設定します。十分な空きディスク領域があるファイル・システム上のディレクトリを指定します。

- Bourne、Bash または Korn シェルの場合

```
$ TMP=/mount_point/tmp
$ TMPDIR=/mount_point/tmp
$ export TMP TMPDIR
```

- C シェルの場合

```
% setenv TMP /mount_point/tmp
% setenv TMPDIR /mount_point/tmp
```

12. 次のようなコマンドを入力して、ORACLE_BASE および ORACLE_SID 環境変数を設定します。

- Bourne、Bash または Korn シェルの場合

```
$ ORACLE_BASE=/u01/app/oracle
$ ORACLE_SID=sales
$ export ORACLE_BASE ORACLE_SID
```

- C シェルの場合

```
% setenv ORACLE_BASE /u01/app/oracle
% setenv ORACLE_SID sales
```

この例では、/u01/app/oracle は以前に作成した Oracle ベース・ディレクトリ、sales はデータベースをコールする場合に使用する名前（通常は 5 文字以下）です。

13. ORACLE_HOME および TNS_ADMIN 環境変数が設定されていないことを確認するために、次のコマンドを入力します。

- Bourne、Bash または Korn シェルの場合

```
$ unset ORACLE_HOME
$ unset TNS_ADMIN
```

- C シェルの場合

```
% unsetenv ORACLE_HOME
% unsetenv TNS_ADMIN
```

14. 環境が正しく設定されたことを確認するために、次のコマンドを入力します。

```
$ umask
$ env | more
```

umask コマンドにより値 22、022 または 0022 が表示されていること、およびこの項で設定した環境変数に適切な値が設定されていることを確認します。

9 製品ディスクのマウント

ほとんどの HP Tru64 UNIX システムでは、製品ディスクをドライブに挿入すると自動的にマウントされます。ディスクが自動的にマウントされない場合は、次の手順を実行してマウントします。

1. ユーザーを root に切り替えます。

```
$ su - root
```

2. 必要に応じて次のようなコマンドを入力し、現在マウントされているディスクをアンマウントしてドライブから取り出します。

```
# /usr/sbin/umount /cdrom
```

この例では、/cdrom はディスク・ドライブのマウント・ポイント・ディレクトリです。

3. 該当するディスクをディスク・ドライブに挿入し、次のようなコマンドを入力してマウントします。

```
# /usr/sbin/mount -t cdfs -o nodefperm,noversion /dev/disk/cdrom0c /cdrom
```

この例では、/cdrom はディスク・マウント・ポイント・ディレクトリで必ず存在する必要があります。/dev/disk/cdrom0c はディスク・デバイス名です。

4. Oracle Universal Installer に「ディスクの場所」ダイアログ・ボックスが表示される場合は、ディスク・マウント・ポイント・ディレクトリ・パスを入力します。

例:

```
/cdrom
```

10 Oracle Database のインストール

oracle ユーザーの環境を構成した後、次のようにして Oracle Universal Installer を起動し、Oracle Database をインストールします。

注意: DVD からソフトウェアをインストールしている場合、次のようなコマンドを使用してください。

```
$ /mount_point/db/runInstaller
```

1. Oracle Universal Installer を起動するには、次のコマンドを入力します。

- インストール・ファイルがディスク上にある場合は、次のコマンドを入力します。`directory_path` は、DVD 上のデータベース・ディレクトリのパスです。

```
$ cd /tmp
$ /directory_path/runInstaller
```

- インストール・ファイルがハード・ディスク上にある場合は、ディレクトリを `db` に変更して、次のコマンドを入力します。

```
$ ./runInstaller
```

Oracle Universal Installer が起動しない場合、『Oracle Database インストレーション・ガイド for HP Tru64 UNIX』の X Window の表示に関する問題のトラブルシューティング方法を参照してください。

2. 次の表に、Oracle Universal Installer の各画面で推奨するアクションを説明します。次のガイドラインに従ってインストールを完了します。

- より詳細な情報が必要な場合、またはデフォルト以外のオプションを選択する場合、「ヘルプ」をクリックすると追加情報が表示されます。
- ソフトウェアのインストール時またはリンク時にエラーが発生した場合、『Oracle Database インストレーション・ガイド for HP Tru64 UNIX』のトラブルシューティングに関する情報を参照してください。

注意: 前述のタスクを完了している場合、ほとんどの画面でデフォルトを選択してインストールを完了できます。

画面	推奨するアクション
インストール方法の選択	デフォルトでは、「基本インストール」オプションが選択されています。 Oracle ホームのディレクトリ・パスを指定します。UNIX DBA グループ oinstall が選択されていることを確認します。初期データベースを作成する場合は、その名前とパスワードを指定します。「次へ」をクリックします。
インベントリ・ディレクトリと資格証明の指定	この画面は、システムに Oracle 製品を初めてインストールする場合にのみ表示されます。 Oracle Inventory ディレクトリのフルパスを指定します。オペレーティング・システム・グループ oinstall が選択されていることを確認します。「次へ」をクリックします。
製品固有の前提条件のチェック	前提条件の確認がすべて成功したかどうかを確認してから、「次へ」をクリックします。 Oracle Universal Installer ではシステムをチェックして、システムが Oracle ソフトウェアを実行するように正しく構成されているか確認します。このマニュアルに記載されているインストール前の手順をすべて完了している場合、すべてのチェックに合格します。 確認に失敗した場合は、画面に表示された失敗の原因を確認してください。可能であれば、問題を修正して確認を再実行します。システムが要件を満たしていることを確認した場合は、失敗した確認のチェック・ボックスを選択して、要件を手動で確認することもできます。
サマリー	この画面に表示された情報を確認して、「インストール」をクリックします。
インストール	この画面には、製品のインストール中のステータス情報が表示されます。
コンフィギュレーション・アシスタント	この画面には、ソフトウェアを構成しデータベースを作成するコンフィギュレーション・アシスタントのステータス情報が表示されます。このプロセスの終了時にメッセージが表示された場合は、「OK」をクリックして続行します。
構成スクリプトの実行	プロンプトが表示されたときは、指示を読み、この画面に示されているスクリプトを実行します。「OK」をクリックして続行します。
インストールの終了	コンフィギュレーション・アシスタントにより、Oracle Enterprise Manager Database Control など、複数の Web ベースのアプリケーションが構成されます。この画面には、これらのアプリケーションに対して構成されている URL が表示されます。使用されている URL を書き留めます。これらの URL で使用されたポート番号は、次のファイルにも記録されます。 oracle_home/install/portlist.ini Oracle Universal Installer を終了するには、「終了」をクリックしてから「はい」をクリックします。

11 Oracle Database 10g Companion CD からの製品のインストール

Oracle Database 10g Companion CD には、インストール可能なその他の製品が収録されています。これらの製品のインストールが必要かどうかは、使用する Oracle Database 製品または機能によって異なります。次の製品または機能を使用する場合は、Companion CD から Oracle Database 10g 製品をインストールする必要があります。

- JPublisher
- Oracle JVM
- Oracle *interMedia*
- Oracle JDBC 開発ドライバ
- Oracle SQLJ
- Oracle Database Examples
- Oracle Text が提供するナレッジ・ベース
- Oracle Ultra Search
- Oracle HTML DB
- Oracle Workflow サーバーおよび中間層コンポーネント

Companion CD からソフトウェアをインストールする方法の詳細は、『Oracle Database Companion CD クイック・インストレーション・ガイド for HP Tru64 UNIX』を参照してください。

12 インストール後の作業

Oracle Database のこのリリースについて理解するために、次のタスクを実行することをお勧めします。

- Web ブラウザから Oracle Enterprise Manager Database Control にログインします。

Oracle Enterprise Manager Database Control は、1 つの Oracle Database インストールの管理に使用できる Web ベースのアプリケーションです。Database Control のデフォルトの URL は、次のようになります。

`http://host.domain:1158/em/`

ログインするには、ユーザー名 SYS を使用して SYSDBA として接続します。Oracle Database 10g のインストール時にこのユーザーに対して指定したパスワードを使用します。

- 『Oracle Database インストレーション・ガイド for HP Tru64 UNIX』の、必須およびオプションのインストール後の作業を参照してください（使用する製品によって異なります）。
- 『Oracle Database インストレーション・ガイド for HP Tru64 UNIX』の、Database Control を使用してインストール済データベースの構成を確認する方法を参照してください。
- Oracle Enterprise Manager Database Control を使用してデータベースを管理する方法については、『Oracle Database 2 日でデータベース管理者』を参照してください。

このマニュアルは、新しい Oracle DBA を対象としており、Database Control を使用して、Oracle Database インストールのあらゆる面を管理する方法を説明します。また、インストール時に構成しなかった可能性がある、電子メール通知および自動バックアップを使用可能にする方法も説明しています。

13 追加情報

この項では、次の内容について説明します。

- [製品のライセンス](#)
- [サポートおよびサービス](#)

製品のライセンス

このメディア・パックに含まれている製品は、トライアル・ライセンス契約に基づき、30日間、インストールおよび評価できます。ただし、30日間の評価期間後もいずれかの製品の使用を継続する場合、プログラム・ライセンスをご購入いただく必要があります。

サポートおよびサービス

次の各項に、各サービスに接続するための URL を記載します。

Oracle サポート・サービス オラクル製品サポートの購入方法、および Oracle サポート・サービスへの連絡方法の詳細は、次の URL を参照してください。

<http://www.oracle.com/lang/jp/support/index.html>

製品マニュアル 製品のマニュアルは、次の URL にあります。

<http://www.oracle.com/technology/global/jp/documentation/index.html>

研修およびトレーニング 研修に関する情報とスケジュールは、次の URL で入手できます。

http://education.oracle.com/pls/web_prod-plq-dad/db_pages.getpage?page_id=3

その他の情報 オラクル製品やサービスに関するその他の情報については、次の URL から参照してください。

<http://www.oracle.com/lang/jp/index.html>

<http://www.oracle.com/technology/global/jp/index.html>

注意： ドキュメント内に記載されている URL や参照ドキュメントには、Oracle Corporation が提供する英語の情報も含まれています。日本語版の情報については、前述の URL を参照してください。

14 ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクル社は、障害のあるお客様にもオラクル社の製品、サービスおよびサポート・ドキュメントを簡単にご利用いただけることを目標としています。オラクル社のドキュメントには、ユーザーが障害支援技術を使用して情報を利用できる機能が組み込まれています。HTML 形式のドキュメントで用意されており、障害のあるお客様が簡単にアクセスできるようにマークアップされています。標準規格は改善されつつあります。オラクル社はドキュメントをすべてのお客様がご利用できるように、市場をリードする他の技術ベンダーと積極的に連携して技術的な問題に対応しています。オラクル社のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/accessibility/> を参照してください。

ドキュメント内のサンプル・コードのアクセシビリティについて

スクリーン・リーダーは、ドキュメント内のサンプル・コードを正確に読めない場合があります。コード表記規則では閉じ括弧だけを行に記述する必要があります。しかしスクリーン・リーダーは括弧だけの行を読まない場合があります。

外部 Web サイトのドキュメントのアクセシビリティについて

このドキュメントにはオラクル社およびその関連会社が所有または管理しない Web サイトへのリンクが含まれている場合があります。オラクル社およびその関連会社は、それらの Web サイトのアクセシビリティに関しての評価や言及は行っておりません。

Oracle サポート・サービスへの TTY アクセス

アメリカ国内では、Oracle サポート・サービスへ 24 時間年中無休でテキスト電話 (TTY) アクセスが提供されています。TTY サポートについては、(800)446-2398 にお電話ください。

Oracle Database クイック・インストール・ガイド, 10g リリース 2 (10.2) for HP Tru64 UNIX
部品番号: B50705-01

Oracle Database Quick Installation Guide, 10g Release 2 (10.2) for hp Tru64 UNIX

原本部品番号: B31392-01

Copyright © 2009, Oracle. All rights reserved.

制限付権利の説明

このプログラム (ソフトウェアおよびドキュメントを含む) には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。

独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致し兼ねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段 (電子的または機械的)、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software--Restricted Rights (June 1987). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このプログラムは、核、航空、大量輸送、医療あるいはその他の本質的に危険を伴うアプリケーションで使用されることを意図しておりません。このプログラムをかかる目的で使用する際、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。万が一かかるプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

Oracle, JD Edwards, PeopleSoft, Siebel は米国 Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性があり得ます。

このプログラムは、第三者の Web サイトへリンクし、第三者のコンテンツ、製品、サービスへアクセスすることがあります。オラクル社およびその関連会社は第三者の Web サイトで提供されるコンテンツについては、一切の責任を負いかねます。当該コンテンツの利用は、お客様の責任になります。第三者の製品またはサービスを購入する場合は、第三者と直接の取引となります。オラクル社およびその関連会社は、第三者の製品およびサービスの品質、契約の履行 (製品またはサービスの提供、保証義務を含む) に関しては責任を負いかねます。また、第三者との取引により損失や損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。